



管内 JA なす生産量(t)と販売金額(千円)

大崎地域における「なす」栽培の取り組みについて

大崎地域は県内のなすの販売実績のうちおよそ6割を占める県内一の産地です。

JA 古川は昭和 62 年に「JA 古川なす部会」を設立し、水稻育苗ハウスや鉄骨ハウスを利用した施設栽培により、なす生産を行っており、その他にも加工・業務用として露地での栽培にも取り組んでいます。

JA 古川なす部会は生産者のエコファーマー認定を推進するとともに、マルハナバチ、天敵導入による環境にやさしいなす栽培に取り組んでいます。さらに、消費者から選ばれる産地づくりを進めるため自主 GAP への取り組みや品質についても厳しい規格を設けるなど、安全・安心ななすを消費者の方に届ける活動を推進しています。

これらの取り組みの成果により、JA 古川産のなすは他産地と差別化が図られ、市場からも高い評価を受けています。(参考資料：宮城県)